

第398号 10月号 2017.10.20

岐阜県

# 商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

## 実行委員会を結成し、新たな歴史をスタート！ 第42回ろっけん通り歩行者天国

◆主催：ろっけん通り歩行者天国実行委員会

### ■今年も始まった県下最古の歩行者天国

名鉄各務原線六軒駅から真っ直ぐ伸びる、ろっけん通り。その通り一帯で、第42回目となる「ろっけん通り歩行者天国」が9月9日(土)に開かれました。まだまだ残暑が厳しい中ではありますが、地元の各務原市の方をはじめ、多くの来街者でろっけん通りは賑わいました。



▲大賑わいのろっけん通り

年1回行われているこの歩行者天国は、その回数が示す通り40年以上に亘って続いている歴史のあるイベントで、なんと岐阜県内の商店街の中では一番古くから行われている歩行者天国と言われています。また、各務原市内においては、以前は他の商店街でも歩行者天国が行われていたのですが、今も続いているのはこのろっけん通り歩行者天国のみとなっています。

取材当日は、ろっけん通りに集まった各地の踊り子さんたちのチームが、終日踊りを披露し

てこのイベントを盛り上げる「おどりん祭」も、例年通り同時開催。今年も地元のかかみがはら炎舞連の他、愛知県・岐阜県から総勢14チームがろっけん通りに結集し、大いに歩行者天国を盛り上げました。

このおどりん祭の他に来街者を楽しませてくれたのが、地元のグループの演技や演奏です。まず、各務原市消防音楽隊の演奏では、指揮者の方が観客に向かって、コミカルな動きをしながら手拍子を求める姿が随所に見られました。そのため、フォーマルな演奏会になるのかと思いきや、かなりフレンドリーに演奏を楽しめる内容となっていました。

なお、今回の歩行者天国から、各務原市消防団が全面協力してイベントの警備に当たっています。消防団員60人体制で、イベントの安心・安全をしっかりと守っていました。

また、蘇原中学校のバトントワリング部や吹奏楽部のステージは、若々しさに満ちあふれ、多くの来街者の視線を釘付けにしていました。そのうち吹奏楽部の演奏では、部員の生徒が最後の曲を紹介する前に、「私たちが、『次の曲で最後となりました。』と言ったら、元気よく、『えーっ!』と言ってください!」と観客に向かって促す微笑ましい場面も。

その後、部員と観客との間で、「次の曲で最後となりました。」「えーっ!」という掛け合いが見事に決まり、全員が一体となって楽しい演奏会

を演出していました。



▲大勢の観客が集まった蘇原中学校吹奏楽部の演奏

それ以外にも、迫力あるパフォーマンスを見せてくれた各務原太鼓保存会の演奏もあり、大変な賑わいを見せた歩行者天国。40年以上の歴史のあるこのイベントについて、蘇原中央通商店街振興組合の丹羽理事長に取材をしたところ、冒頭に驚くべき発言がありました。

「5月に商店街の総会をやったときに、商店主の高齢化が進んでいることから、今年ぐらいで歩行者天国をやめようかとなったんです。」

まさかの発言に、思わず記者の私は絶句。しかし、現に、ろっけん通り歩行者天国は今年も開催されています。それでは、どうしてこの歩行者天国を続けることができたのでしょうか。

丹羽理事長は話を続けます。

#### ■地域の人が立ち上がって実行委員会を結成！

「そこで、商店街には関係の無い若い人や、やる気のある人などに歩行者天国の開催に向けて協力して欲しいと声を掛けたところ、手を上げてくれた方が20人ぐらい現れました。これに

よって、商店街以外の人が歩行者天国を支えてくれる、“実行委員会”という新しい形態が出来上がったんです。」

丹羽理事長のお話の中に出てきた実行委員会については、今年だけではなく、これからもずっと歩行者天国を続けていこうということで組織されています。イベントの運営を商店街だけで行おうと考えるのではなく、外部の力を得ることでイベントを継続することができた事例として、今後取り上げられることも多くなるかもしれません。

#### ■公共的な色彩を帯びている商店街主催のイベント

今年のろっけん通り歩行者天国も、例年と同じくとても多くの来街者が見られ、終日賑わっていました。地元の人にとっては、もはや毎年恒例とも言えるべきこのイベント。それがなくなってしまう瀬戸際だったという事実には、本当に驚きを隠せません。

しかし、この歩行者天国をなくしてはいけない、という思いで商店街以外の有志が立ち上がり、実行委員会を結成して結果的にイベントを存続させたということからすれば、商店街主催のイベントというのは公共的な色彩を帯びたものと言えることができるでしょう。

高齢化とともに後継者不足の流れが止まらない商店街。しかし、その外に目をやってみると、実は意外に多くのサポーターがいらっしやるのではないかと。そう思わせてくれる取材となりました。

## 恵那グルメ、文化が濃縮された2日間！ ENAみのじのみのり祭

◆主催：ENAみのじのみのり祭実行委員会

#### ■恵那の伝統文化が楽しめる前夜祭

9月23日(土)・9月24日(日)の2日間、

「煌めく恵那のENA(イーナ)を発信」をテーマに、今年もENAみのじのみのり祭がJR恵那駅前周辺にて盛大に開催されました。このお祭

りは「観光都市・恵那」を全国的に広報するとともに、地域経済を活性化させることを目的としており、JR恵那駅前から真っ直ぐ続く中央通りを中心に多くの人で賑わいました。



▲人で溢れるENAみのじのみ祭り

今回の取材では、U字溝の上で松茸を焼いて食べる名物の“秋の味覚焼き”などが催される24日ではなく、前夜祭の23日に恵那を訪れることにしました。取材当日は、飛鳥時代に恵那の里から朝廷へ次米（すきまい）が献上されていたという史実に因みに、新穀を恵那郡の長官、評督（こおりのかみ）に献納するシーンを再現した“恵那の次米献納行列”が催されていました。

また、企業・団体・有志などが製作した勇壮な創作御輿が市街地をパレードする“創作御輿競演”や、恵那太鼓保存会・恵那文化振興会芸能部などの皆さんが、郷土の踊り・太鼓演奏を披露しながら市街地をパレードする“郷土芸能道行”も行われ、恵那の伝統文化を垣間見ることができる内容となっていました。

このうち創作御輿競演では、煌びやかな御輿を一目見ようと、パレードが通る通りに面する商店・住宅の人たちが各々の入り口に立ち、御輿を眺める姿が見られました。中には住宅の縁側に座って見物するお年寄りの方や、椅子を持ち出してお酒を片手に御輿を眺める方もいるなど、楽しみ方は様々。それぞれの建物の目の前がパレードの特等席であることから、多くの人が沿道に詰めかけていました。

## ■白熱の3on3ストリートバスケットボール大会

恵那銀座商店街振興組合は、ENAみのじのみ祭り祭の協賛イベントとして、3on3ストリートバスケットボール大会（以下「3on3」といいます。）を毎年主催しています。これは今年で25年目となる歴史のあるイベントで、銀座2丁目駐車場に、普段はない3on3用のコートとゴールを設置し、小学生の部と中学生以上の部に分かれてトーナメント方式にて優勝を目指すものです。

優勝チームには、恵那銀座商店街のお寿司屋さんでの「お寿司2万円分食べ放題」がプレゼント！それ以外にも商店街から多数賞品が用意され、各チーム熱戦を繰り広げました。



▲熱戦が続いた3on3

この3on3について、恵那市商店街連合会の大家会長は明るい話題があったと言います。

「2020年の東京オリンピックから、この3on3が新種目として採用されました。25年間3on3を主催してきた私たちにとって、こんなに嬉しいことはありません。これを機に、この恵那の地から3on3のオリンピック選手を育てようという新しい目標を作りました。今は2020年のオリンピックに向けて、着々と計画を立てているところです。」

また、大家会長が3on3の開会式などでもこのオリンピックの話題に触れていたことから、記者の私はその本気度を感じました。オリンピックへの出場選手を育てるといのは大変高い目標で、実現までにどのくらいの時間がかかるか見通せないほどだと思います。その実現性を疑問視する声も上がるかもしれません。しか



し実現不可能では無い限り、どんなにレベルが高くても確固たる目標を立てることによって、それを実現する可能性は必ずゼロを超えてきます。

恵那から3on3のオリンピック選手が誕生すること。その可能性は、すでに開かれているのです。

## ■商店街とはどんな場所？

この3on3を紹介する公式ホームページ上に、興味深い言葉がありました。

「(3on3は)商品販売空間としての商店街にとどまらず、新たな商店街の役割を見だし、真の生活空間としての商店街を目指すためのイベントとして位置づけております。」

その内容について大塚会長に改めて伺ったと

ころ、「本当は商店街の空き地に3on3のコートとゴールを常設し、バスケットが好きな子供たちや若者が好きな時に商店街に来て、バスケットをできるようにしたいと思っています。そうすることで、彼らにとって、商店街が自分たちの生活の一部として組み込まれるエリアになればいいですね。」と話してくださいました。

商店街はモノを売る／買うという商業の集積によって形成されていますが、例えば今回の恵那の商店街のように「真の生活空間としての商店街」と捉えると、商店街に対する新たな可能性が生まれてきます。言い換えれば、**商店街は、誰に・どんな価値を・どのように提供する場所なのかという定義次第で、これまでにない発展の方向性を見つけ出すことができるのです。**

皆さんの地域の商店街は、どんな商店街を目指していますか？

今月号より、県内各地の商店街で頑張る個店をご紹介します。新連載が始まります。その中で、そのお店ならではの**特徴やこだわり**などといった、自店の経営にも参考となる情報をお届けしていきます。

## うだつの町並みで味わう目新しいお酒や料理 バル・エスト (美濃俵町商店街振興組合)

### ■リラックスして目新しいお酒や料理が楽しめる

美濃俵町商店街から願念寺に抜ける通りのちょうど真ん中辺りに位置するバル・エスト。ここは約3年前に出来た“バル”という業態のお店で、南ヨーロッパでは酒場・居酒屋・軽食喫茶として地域に親しまれています。飲みに行く場所も遊びに行く場所もなかった美濃に、近隣にはないお酒も料理も楽しめる場所を作ったかったと話すのは、お店を経営する島田達也さん。

お店には幾つか特徴的な決まり事があります。第1に、「いらっしやいませ」を使わないこと。安くないお金を使ってわざわざお店に食べ

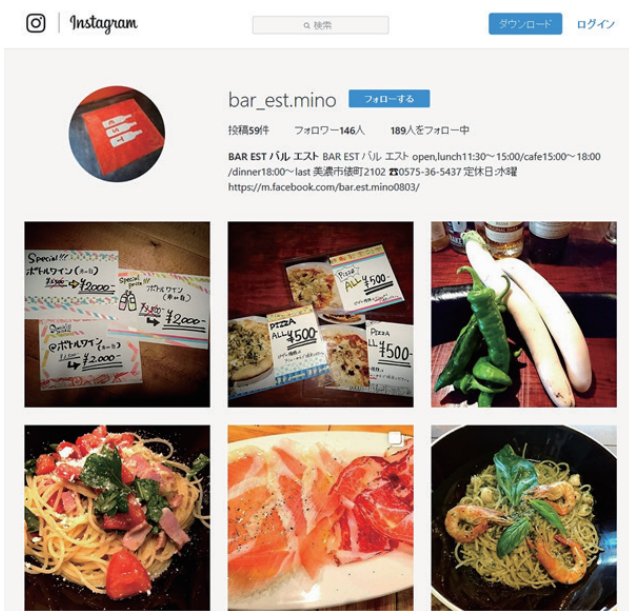
にいらっしやるお客様に、「こんにちは」などと声掛けし、あたかも自宅のようなリラックスできる空間を提供できるよう心がけています。第



▲落ち着いた雰囲気の内

2に、和酒・和食を提供しないこと。美濃地域の方は日本的な居酒屋や和食店に慣れているため、目新しいお酒や料理に出会っていただきたいとの思いから、そのような方針をとっています。

お酒については醸造酒ではビール、蒸留酒ではジン、ウイスキーにこだわりがあり、ビールは素晴らしく漂うような香りが特徴である静岡県のパールド・ブルーイング社のクラフトビールを取り扱っています。また、お店の近くに自家菜園を持っており、そこで島田さん自ら育てた野菜を料理に使うなどして他店との差別化を



▲Instagramで若者を集客

図っています。

お店の主なターゲットは20代～30代の若者。彼らがよく使う画像共有サイト Instagram (インスタグラム) に食欲を刺激する料理の画像を投稿するなどして、ターゲット顧客の集客に結びつけています。

### ■若者の起業のハードルを下げたい

島田さんは最近、飲食店なり小売店なりを自分で開業したいが、リスクを考えてできないという方のハードルを下げたいと思っています。できれば、20代で1回チャレンジできる環境を作りたいとも。

そのためには20代前半に自分が始めたこのお店を続けていくことで、若くてもある程度楽しく仕事を続けられ、生活も出来るということを見せること。そうすることによって若者が自分でもできると思うようになるのでは、と島田さんは考えています。

美濃市俵町2102

☎0575-36-5437

Lunch: 11:30~15:00

Cafe: 15:00~18:00

Dinner: 18:00~ラスト

定休日:水曜日

## 美濃まちかどイタリア食堂 DONI DONI (美濃俵町商店街振興組合)

### ■普段使いができるイタリア食堂

美濃俵町商店街の一角に今年3月オープンしたイタリア食堂、DONI DONI (ドニー・ドニー)。ここは、岐阜市で15年間イタリア食堂を切り盛りしてきたオーナーシェフの園田美佐子さんが、長年の夢であった古民家への移転を実現したお店です。

美濃の地を選んだ理由は2つあります。1つ

目は、岐阜市から遠いようで実は近く、当時のお客様とつながれる場所だと思ったから。2つ目は、美濃は夕方になると観光客がいなくなりお店が閉まってしまうので、ここで普段使いができるイタリアンを始めれば、年配や家族の方、あるいは女性の方に来ていただけるイメージができたから。

イタリアンって言うちょっと洒落ているのかな、と思われたくないからお店の肩書きに“食



▲DONI DONIの園田美佐子さん

堂”という言葉を使っています、と園田さん。また、ランチ、カフェ、ディナーという形態で営業時間を設けているため、お客様の都合に合わせてお店を利用することができます。

### ■レストランは“人が集う場所”

DONI DONIではただ単に料理を提供するだけではなく、時々日本酒の会やボードゲーム交流会などといった様々な集まりを行う場も提供しています。それは、園田さんがレストランを「人が集う場所、そこに行けば誰かに会える場所」だと考えているから。10月には、切り絵作家として有名な草太さんの個展も開催される予定です。

### ■食の大切さを、もっと知ってもらいたい

園田さんは20代の頃、ある人物の本を読み漁っていたと言います。その人物とは、アメリカで最も予約が取れないと言われるオーガニック・レストランのオーナーシェフ、アリス・ウォータース。彼女の影響を受けた園田さんが

シェフを務めていた岐阜市のイタリア食堂時代、料理の価格は他のお店より少し高かったのにもかかわらず、お客さんからこんな声が聞こえてきたそうです。

「使っている食材からすると安すぎるよ。」と。

その後、満を持して美濃の古民家でお店を営むこととなった園田さんは、年に1回収穫祭を催したり、外でテーブルをつなげて青空レストランを開いたりなどしたいという構想を抱いています。そしてそれらの中で、食材の生産者がいて初めて料理が提供できるということをダイレクトに感じてもらいたいと考えています。

食の大切さを、もっと知ってもらいたい。その思いを胸に、園田さんは今日も美濃のまちかどにて美味しいイタリア料理を提供しています。



▲オススメ料理のポローニャ風ラザニア

美濃市俵町2122

☎0575-36-2600

Lunch: 11:00~14:30

Cafe: 14:30~15:30

Dinner: 17:30~21:00

定休日: 火曜日(水曜日不定休)

【取材・記事 中小企業診断士 加藤正浩】

### ■事務局(ゆ)のヒトリゴト

こんにちは!

先週は、夏に戻ったのかなというくらい暑い日が続きましたが、今週はめっきり肌寒くなりました。いよいよ冬の到来が近づいて参りまし

た。

寒暖の差が激しいと体調を崩しやすくなりますので、体調管理には十分お気を付けください。

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。